

ハナショウブ園の改修

小川恒彦・濱谷修一

ハナショウブは株が古くなると生育が衰えて開花しなくなったり枯死しやすくなる傾向がある。そのため、3～4年に一度掘り上げ、株分けや株の更新を行う必要がある。また、当園のハナショウブ園(日本庭園内)は土壌の劣化とともに根詰まり状態が認められるようになっていた。また、畑面が観察路に対して低く、ハナショウブの観賞に好ましくない状況になっていたため、平成21年度に土壤更新および排水等の改修工事(以後「改修工事」と省略)を行うとともに、ハナショウブ全株の株分け、植え替えと品種配置の変更を行ったので記録する。

1. 掘り上げ作業から仮植え

改修工事の着工が9月と決定したのに伴い、8月下旬に既存のハナショウブを掘り上げ、株分けと仮植えを行った。

作業効率の観点から、鍬で株を掘り上げる際は一度に大株で起さず、小分けに起した。また、掘り残しがあると次に植え付けた株と品種が混ざるため、細心の注意をはらった。



写真 1. 葉の切り取り

株分けは根を洗いながら行い、細根を傷めない様に、前後にひねり、2～3本ずつに小分けした。

仮植時の過蒸散と株の倒伏を防ぐため、地上部(葉)を約30cmに切り揃えた。鉢物では扇状に切るが、これは外観の問題であり生育には関係しない(写真1)。

仮植えは、深植えにせず、葉の生え際が地上に出る程度とし、条植えとした。この際、品種を間違えないよう、ラベルを確認しながら行った(写真2)。

2. 改修工事

まず、老朽化したコンクリート製の水路を撤去した。また、これまでは勾配があって水がたまりにくい構造だったため、中央部に野面(のづら)石を積んで棚田方式に分割して畑面の水平を確保した。棚田風に分けられた植栽区域(6区画)の境界ごとに水位調節用の水門(コンクリート製)を設置した。

植栽区域ごとに0～10cm厚程度土壌を掘り取り、新しい用土(表参照)を15～35cm厚程度搬入した。搬出よりも搬入量が多くなっているのは、従来の畑面が観察路に対して低く、花の位置が非常に低かったのを、それを改善するためである(写真3～5)。

観察路も老朽化して来園者の歩行に危険が生じて



写真 2. 仮植え



写真 3. 改修事前



写真 4. 新しい用土搬入の様子

4. おわりに

「花菖蒲」はいつの時代から観賞されてきたのか定かでないが、梅、桜と並んで現在でも日本人の心に何かを訴える魅力を持った花であるといえる。江戸時代後期にはほぼ現在と変わらない品種群に発展していたと伝えられる「花菖蒲」は、戦争や流行の変遷の影響で衰退した時期もあるが、先達の努力によってこれまでに約 5,000 品種の名前が登録されている。当園では、次々と生み出されている新品種を収集するのではなく、時代の流れの中を生き残ってきた古花を中心に、保存・展示していくことに力を注ぐ方針である。

＊今回の植栽変更に際し、次の方々に株の分譲をいただきました。ここにお礼申し上げます。

(財) 高知県牧野記念財団

‘昇竜’、‘蛇籠の波’、‘霓裳羽衣’、‘王昭君’

北広島市城山花菖蒲園

‘岐山の春’、‘煙夕空’、‘春日野’、‘夕霧’、‘花吹雪’、‘花車’、‘初光’、‘十六夜’、‘濡燕’、‘糸貫川’、‘羽衣紋’、‘旭丸’

三輪 昇氏（日本花菖蒲協会会員）

‘北野天使’

(注. 植物名は、カタカナ表記で統一すべきであるが、文化に関する意図を含む部分については敢て漢字表記した。)

平成 20 年度野生ランの展示状況

磯部実・信太千帆・清水昭一

平成 20 年度にフクシア温室の野生ランコーナー他で展示した野生ランの開花株展示状況を記録する(表)。これまでの野生ランの展示状況は当園栽培記録第 28 号「平成 18 年野生ランの展示状況（フクシア温室）」(濱谷・信太 2007) ほかで報告した。

展示の入れ替えは毎週 1 回行った。展示スペースに限りがあるため、開花数が多い季節はより状態の良いものから優先的に展示するなど、人為的な調整は行ったが、花の大きなもの、株の大きなものは大温室のラン展示コーナーに展示し、できるだけ多くの開花株を展示できるように努めた。展示した野生ランは延べ 567 種 765 点であった(写真 2～6)。

平成 20 年 5 月 28 日には岡山県総社市の松下一氏よりカトレヤ系原種(177 株)の寄贈により多くの個体が展示でき、これからも展示できる予定である。

小さなランには虫眼鏡を添えたり、拡大図を添えて花の構造を観察しやすいようにし、香りのあるランには目立つような表示をつけ、来園者に気づいてもらいやすいように努力した。また、ラン科植物の生態や形態に関する説明看板を増設し、個々の特徴的な種類には詳しい解説板をつけて観察しながらランのことが学べる工夫を施した。今後も徐々に増やしながら継続していく予定である。

なお本表は大温室のラン展示コーナーや 2009 年第 26 回広島県ラン展(広島駅前福屋百貨店 1 月 15 日～20 日原種 52 種 59 点展示、写真 1)、沖縄国際洋蘭博覧会 2009(沖縄県海洋博覧会記念公園 2 月 6 日～2 月 15 日 20 品種 40 点内原種 1 種 2 点展示)、2009 年洋らん特別展 in 尾道(尾道市向島洋らんセンター、2 月 28 日～3 月 8 日、原種 47 種 54 点展示)、柳井オーキッドクラブ洋ラン展(山口県柳井市やまぐちフラワーランド 3 月 27 日～3 月 29 日、原種 38 種 38 点展示)で出品した種も含んでいる。



写真 1. 広島県ラン展の植物公園展示状況



写真 2. *Cattleya labiata*